

第2回 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会 会議録（概要）

件名	第2回 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会		
日時	令和6年9月27日(金) 14:00～16:00	場所	三次市役所本館6階 605・606 会議室他
出席者（策定委員）16名		出席者（事務局・基本方針策定支援業務受託者）	
・林会長 ・小川副会長 ・田中委員（リモート） ・浦田委員 ・藤川委員 ・岩崎委員 ・住岡田委員 ・高田委員 ・増田委員 ・水越委員 ・岡崎委員 ・今井委員 ・長尾委員 ・三上委員 ・森川委員 ・福田委員		・迫田教育長 ・宮脇教育部長 ・藤本課長 ・今井係長 ・新谷係長 ・曲田専門員 ・平主事 ・(株)エブリプラン3名（基本方針策定支援業務受託者）	
欠席者（策定委員） ・安田委員 ・次川委員 ・池上委員 ・佐々木委員			
項目	(1) 報告事項 第1回策定委員会の意見概要 (2) 協議事項 「個別最適で協働的な学びの実現，地域と学校」について（グループワーク）		

1 開会

事務局

定刻となりましたので、ただ今から「第2回三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会」を開会させていただく。

本日の会議は、2時間の予定としているが、グループワークによる協議の時間を1時間程度確保することから、終了予定時刻の16時を超えることも想定されることを了解願いたい。

傍聴の希望があるので、入室を許可する。

～傍聴者（3名）入室～

最初に、第1回策定委員会にはご都合により欠席されたが、本日出席の委員を紹介させていただく。

～2名（田中委員，長尾委員）の紹介～

続いて、本日の第2回策定委員会への欠席委員を報告する。

～4名（安田委員，次川委員，池上委員，佐々木委員）の報告～

2 挨拶

林会長 委員会出席前にトレッタみよしや奥田元宋・小由女美術館に立ち寄ったところ、多数の子どもたちが訪れていた。三次には子どもたちが学ぶべき良い施設がたくさんあることを実感した。本日の委員会では三次の魅力を語っていただくことを願います。

3 報告事項

林会長 ～資料2により第1回策定委員会の意見概要として、「子ども」「地域」「教育内容」「協議の方法・内容等」のカテゴリ別に報告～

4 協議事項

(1) 「個別最適で協働的な学びの実現，地域と学校について」

ア 取組事例について（紹介映像視聴）

○ 個別最適で協働的な学びの取組について

～富山市立芝園小学校「個別最適で協働的な学びの最前線！子ども主体で学びを進める”複線型授業”とは」を視聴～

○ 三次市のコミュニティスクールの取組について

～三次中学校区（令和4年度コミュニティスクールモデル地区指定）の取組事例（三次ケーブルビジョン制作）を視聴～

イ グループワーク

～3グループに分かれて、ワークショップ方式により協議を実施～
＜ポイント＞

① 三次市の特色・魅力を踏まえた「魅力ある学校」について

② ①を踏まえて「三次市の学校魅力化を実現するポイント」について

【グループ分け】

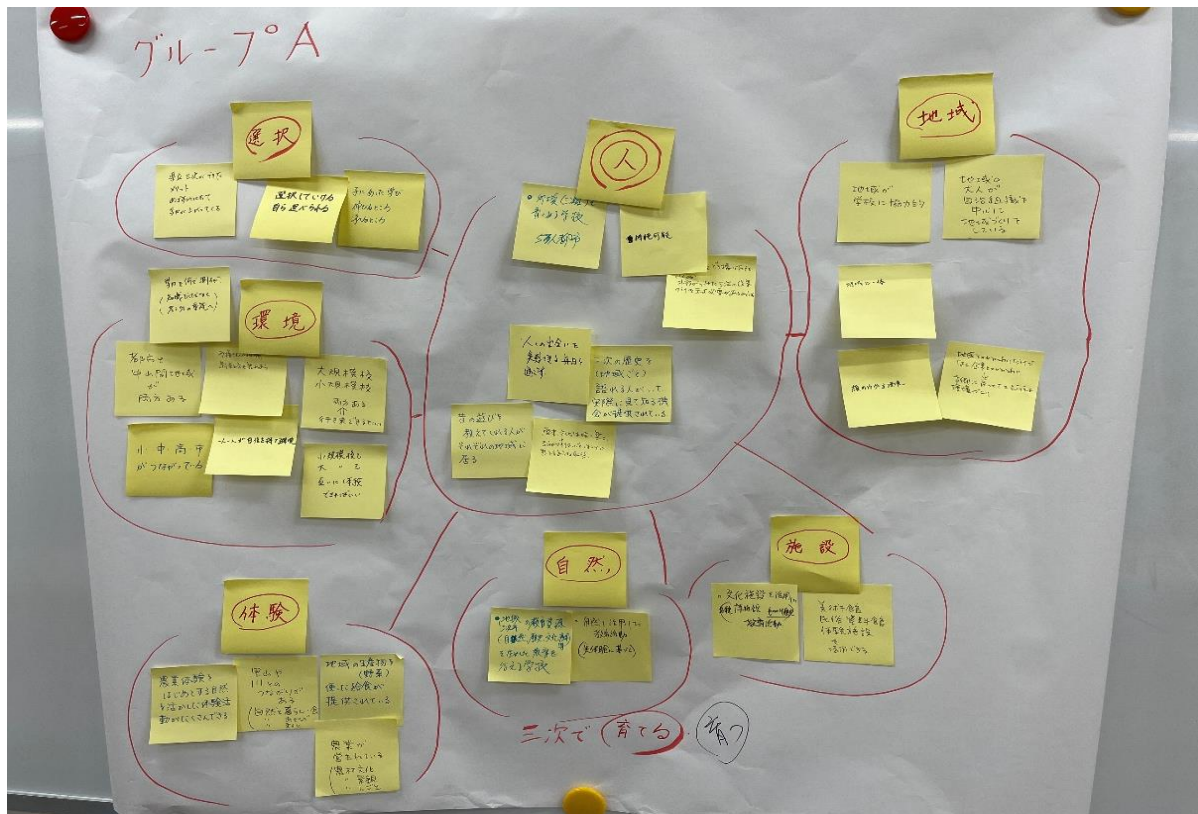
Aグループ：林会長，浦田委員，岩崎委員，高田委員，増田委員，水越委員

Bグループ：小川副会長，藤川委員，岡崎委員，長尾委員，福田委員

Cグループ：田中委員，住岡田委員，今井委員，三上委員，森川委員

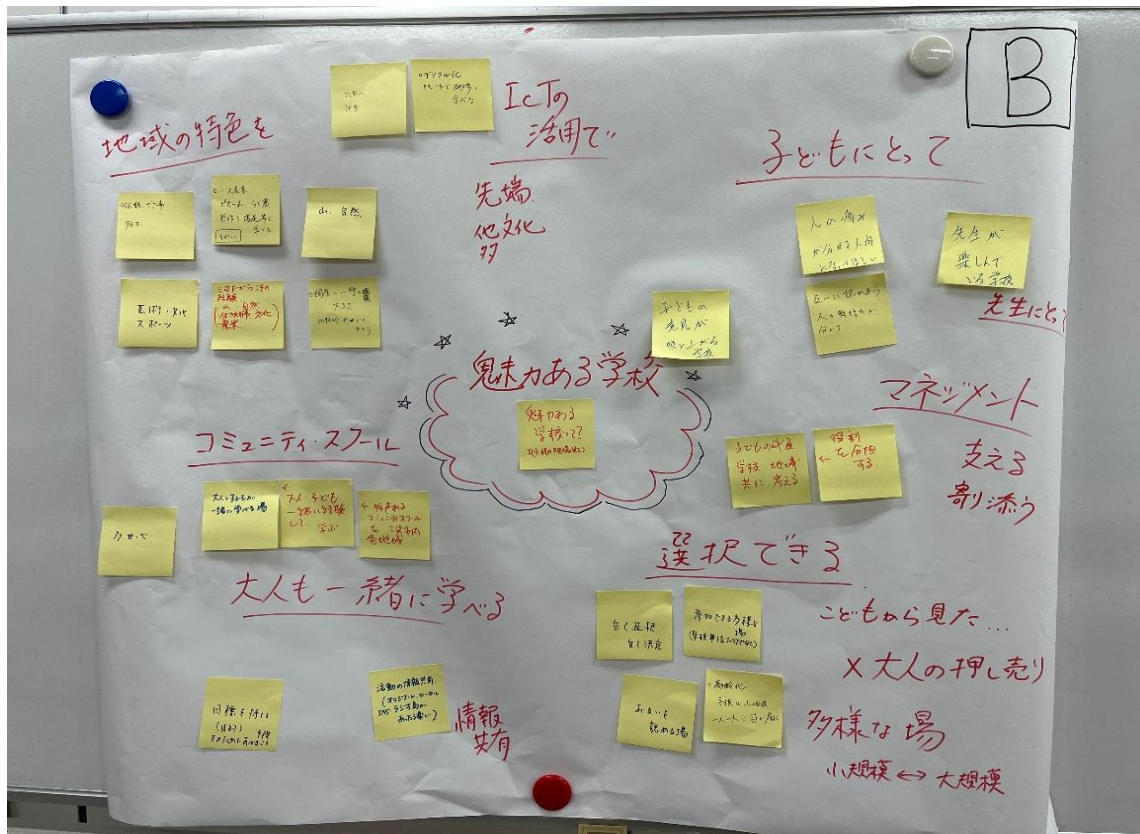
ウ 発表（グループ毎），まとめ

【Aグループ】



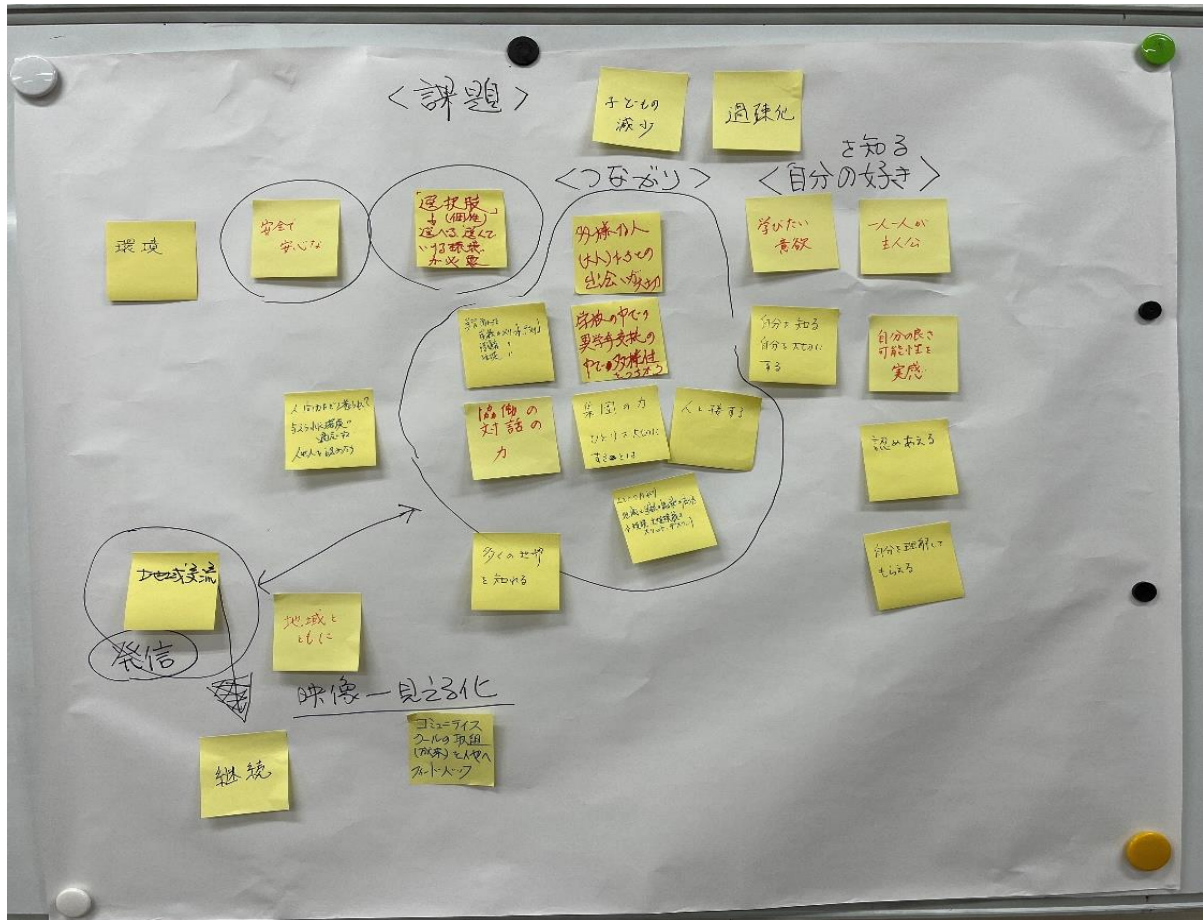
- ・各委員から多くの意見が出された。
- ・キーワードとしては、「選択」「環境」「体験」「施設」「人」に分けられる。
- ・三次市は5万人規模の自治体であり，人と人の距離が近い。
- ・体験活動をする機会も各学校で多く設けられており，このことが子どもたちの育ちのベースになっている。
- ・三次に住んでいると気付かないが，外から見ると三次には教育に関する良い文化施設や魅力的な施設がたくさんある。
- ・中山間地域の中で，小・中・高校，行政とつながりがあるが，素材（資源）が点と点なので，繋いでいく人が必要となってくる。その役割を担うのが誰になるのか，三次で人として育て，育てる側も一緒に育つ環境が大切となる。三次だからこその可能性があるのではないかな。
- ・大人たちが試行錯誤する取組やその過程が子どもたちの教育にとって良い方向につながっていく。子どもたちの数だけ考えややりたいことがある。それらに合わせていく大人たちの柔軟な発想も今後大切となっていくのではないかな。
- ・子どもの自己決定と自己決定するための環境が必要である。また，多様性を理解し，認め合えることが必要である。
- ・教育資源が豊富で，これらを活かした教育活動が可能である。また，歴史・文化を大体の市民が知っており，郷土愛を育む教育ができている。学校と地域との密接な関係ができるとよい。

【Bグループ】



- ・「魅力ある学校とは？」について、「子どもにとって」「マネジメント」「選択できる」「大人も一緒に学べる」「コミュニティスクール」「地域の特徴を活かす」という項目に分類して意見交換を行った。
- ・その中で「子どもにとって」という意見が多く出された。
- ・グループワークでは、子どもたちがどうしたいのか、大人の押し売りになってはいけないということを前提に進めた。
- ・そのためには小規模校・大規模校を子どもたちが選択できる環境も必要だという意見もあった。
- ・子どもたちがどうしたいかという思いに対して、大人たちは何ができるかという点では、先生、地域内での役割分担が必要であり、コミュニティスクールが一つの基盤となってくる。その中で、子どもと大人が一緒に体験をすることでともに学ぶことができ、そこに地域の人に参加すると、地域の活性化にもつながっていく。
- ・各学校が特色を持った教育を行い、自分の行きたい学校を選択できる環境となればよい。
- ・今後の小中学校のあり方として、子どもたちの数は必ず減り、学校の数も縮小していく中で、各地域で頑張っていること、例えば三良坂・吉舎・甲奴でやっていたことを三次という大きい「くくり」で考えていくことで子どもたちにとって新しい発見や学びが見えてくるのではないかな。
- ・ICTも活用して三次の情報を発信・共有をすることで、子どもたちの学びの環境を維持していけると感じた。

【Cグループ】



- ・現実的な大きな課題としては子どもの減少と過疎化が挙げられた。
- ・課題は色々あるが、自分が好き・一人ひとりが輝ける学校となることが大切。
- ・その中で3つにまとめた。1つ目がバーチャルではなく、リアルで異年齢・多世代との交流ができる学校。2つ目が子どもたちにとって、魅力ある、楽しい、おもしろい、やってみたいができる学校。3つ目がその中で、子どもたち一人ひとりが自分で選んで決めて進んでいくことで達成感が得られる学校で、これらすべてを支えていくのが安全で安心な学校づくりであるとまとめられた。
- ・今後は、地域の中だけで閉じるのではなく、地域と地域で交流を持つことで他地域から学び、学ぶことで自分の地域の良さを実感していくことが大切である。
- ・町を超えて三次全体でつながっていくことも大切だという意見もあった。
- ・他地域のコミュニティスクールの取組や地域交流等を市全体で共有できるとよい。
- ・今の子どもたちは、SNSという情報環境の中で多くの人と関わり、様々な情報を得ている。このことも大切なことだが、直接会って意見を交換し、相手方の表情や会話をとおして学び・成長していくメリットは、SNSの環境の中では得られないものがある。そうした点からも、一定の集団での学びの環境は必要であると考えます。
- ・一人の力ではできないが、集団の力ならできることもある。
- ・小規模校は大規模校に比べてたくさんの体験ができる環境である。

【振り返り】

田中委員

これまでさまざまな審議会や委員会等での検討や協議を経験してきた中で、出席者が「自分ごと」として捉え、みんなで作っていくスタイルは珍しく、この協議の過程が大切となる。

自分の意見が言えずに自分ごとと思えない計画をつくるのではなく、自分がかかわった計画だと捉えられることが大切なため、今回「魅力ある学校とは何か？」という本質的なテーマで話し合えたことは素晴らしいと思う。委員それぞれがこの方針について周りの人と話し、意見を聞き、委員全体で協議を重ね作っていくことが重要であり、楽しみでもある。今回はそれに向けての貴重な会議となったと思う。

小川副会長

先ほどグループごとの発表を聞く中で、「ともに学ぶ」「選択する」「連携する」という共通した言葉が出された。

根幹にあるのが、大人たちが子どもの目線に立つこと。子どもが何を学びたいのか知ること。そこに対して向き合うのではなく寄り添って、ともに学び育っていくことが大事との意見が聞き取れたように思う。

これまでは各学校区の地域の範囲で、子育てや教育に関わる人たちが行ってきたことを、これからは三次市全体に広げ、連携していくことが大切だと思って聞かせていただいた。

そこに「選択」という言葉が紐づいてくる。どこに行っても良い、特色あるコミュニティスクールを作っていけば、子ども自身が選択し、地域とともに学ぶことができる。そのために地域の方々が一生懸命考え、子どもと接する機会を通じて成長し、三次全体で三次の子どもを育てていこうという気概を感じられた。

どのグループも共通する意見が出ていたことに驚き、三次市全体で三次の子どもを育てて、子どもに寄り添っていこうという強い思いを受け止めさせていただいた。

林会長

魅力ある三次の学校ということで、三次の魅力は「人」だと考える。施設・自然の中に子どもを投げ込むのではなく、それを子どものものにしていくためには大人や教職員、地域の人がつなげていくことが重要である。

そこで人を実感することが大切であり、実感するという中で意味ある他者としての大人や同僚、子ども同士が三次にはたくさんいるのだと感じた。それらを実感できる教育システムをどう進めていくのかを次回以降の協議で深めていく必要がある。

今後、計画の中で望ましい学校とはどのようなものかを考える上で魅力ある人をどのように捉えるかを考えるようになると思う。

本日の意見を今後につなげることが大切であり、ともに学ぶことを可能にしていく教育とはどのようなものかを議論していけると良い。

以上で、本日予定していた議事はすべて終了した。委員のみなさまには円滑な進行にご協力いただき、感謝申し上げます。

それでは進行を事務局にお返しする。

5 その他

事務局

グループごとの意見は速やかにまとめてフィードバックする。短い時間だったので、伝えきれなかった意見や掘り下げたい観点があれば、事務局に連絡いただきたい。欠席された委員にも本日の協議内容を送り、意見を頂くよう依頼する。今後の予定として、昨年度実施したアンケートを補完するアンケートを実施する予定である。

次回の策定委員会は10月28日(月)14時から、三次市役所において開催する。本日の今回の振り返りを行い、今後の児童生徒数の推計を用いながら「望ましい学校の配置について」の協議につなげていくことを予定している。

以上をもって、「第2回三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会」を終了する。